(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3745799号
(P3745799)
(45)発行日　平成18年2月15日(2006.2.15)　(24)登録日　平成17年12月2日(2005.12.2)

(51)Int.Cl.　F I
A61F 13/56 (2006.01)　A61F 13/18 350

請求項の数 8　(全 12 頁)

(21)出願番号　特願平7-250538
(22)出願日　平成7年9月28日(1995.9.28)
(65)公開番号　特開平9-94267
(43)公開日　平成9年4月8日(1997.4.8)
審査請求日　平成14年9月30日(2002.9.30)

(73)特許権者　390029148
大王製紙株式会社
愛媛県四国中央市三島紙屋町２番６０号
(74)代理人　100082647
弁理士　永井　義久
(74)代理人　100104927
弁理士　和泉　久志
(72)発明者　中尾　直人
愛媛県伊予三島市紙屋町５番１号　大王製紙株式会社内
(72)発明者　松岡　正樹
愛媛県伊予三島市紙屋町５番１号　大王製紙株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ウイング付吸収性物品

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
本体部分における長手方向中間の両側部分に、使用状態においてショーツの股間部の側縁を回り込んでショーツ外面にそれぞれ当てがわれるウイングが形成されており、前記本体部分および両ウイングの非使用面にそれぞれズレ止め用粘着手段が形成されている吸収性物品において、
剥離紙が、前記本体部分に形成されたズレ止め用粘着手段および前記両ウイングに形成されたズレ止め用粘着手段を覆って、これら粘着手段に仮着されており、
前記両ウイングが前記剥離紙とともに前記本体部分の非使用面側に折り畳まれており、
前記剥離紙における前記ズレ止め用粘着手段と仮着されていない面側にカバーシートが接着されて、前記剥離紙とカバーシートとが一体とされており、
前記剥離紙は、前記本体部分に形成されたズレ止め用粘着手段を覆って仮着された本体用剥離紙と、前記両ウイングに形成されたズレ止め用粘着手段を覆って仮着されたウイング用剥離紙とを有し、
かつ、前記カバーシートを引っ張ることによって、前記剥離紙が前記両ズレ止め用粘着手段から剥がされるように構成されていることを特徴とするウイング付吸収性物品。
【請求項２】
前記本体部分に形成されたズレ止め用粘着手段を覆って本体用剥離紙が仮着され、この本体用剥離紙を跨ぎかつ前記両ウイングに形成されたズレ止め用粘着手段を覆ってウイング用剥離紙が仮着され、

前記両ウイングが前記ウイング用剥離紙とともに前記本体部分の非使用面側に折り畳まれ、本体用剥離紙における前記ズレ止め用粘着手段に仮着されていない面とカバーシートとが接着されているとともに、前記ウイング用剥離紙における前記ズレ止め用粘着手段に仮着されていない面と前記カバーシートとが接着されている請求項１記載のウイング付吸収性物品。

【請求項３】

前記本体部分に形成されたズレ止め用粘着手段を覆って本体用剥離紙が仮着され、この本体用剥離紙を跨ぎかつ前記両ウイングに形成されたズレ止め用粘着手段を覆ってウイング用剥離紙が仮着され、

前記両ウイングが前記ウイング用剥離紙とともに前記本体部分の非使用面側に折り畳まれ、前記ウイング用剥離紙と前記本体用剥離紙の重合部において本体用剥離紙とウイング用剥離紙とが接着されているとともに、

前記本体用剥離紙における前記ズレ止め用粘着手段に仮着されていない面および前記ウイング剥離紙における前記本体用剥離紙に接着されていない面の内の少なくとも一方とカバーシートとが接着されている請求項１記載のウイング付吸収性物品。

【請求項４】

前記ウイング用剥離紙として、このウイング用剥離紙を前記ウイングから剥がしたときに、前記ウイングが起き上がるように腰の強い素材を用いる請求項１～３のいずれか１項に記載のウイング付吸収性物品。

【請求項５】

前記カバーシートによって本体部分の非使用面が実質的に覆われ、前記カバーシートを外面側として、長手方向に折り畳まれ、この折り畳み状態における前記カバーシートの両側縁部がヒートシール接合されて、前記吸収性物品が包装されている請求項１～４のいずれか１項に記載のウイング付吸収性物品。

【請求項６】

本体部分における長手方向中間の両側部分に、使用状態においてショーツの股間部の側縁を回り込んでショーツ外面にそれぞれ当てがわれるウイングが形成されており、前記本体部分および両ウイングの非使用面に、それぞれズレ止め用粘着手段が形成された吸収性物品において、

一または複数からなる剥離紙が前記本体部分に形成されたズレ止め用粘着手段および前記両ウイングに形成されたズレ止め用粘着手段を共に覆って、これら粘着手段に仮着されているとともに、

前記両ウイングが前記剥離紙とともに前記本体部分の非使用面側に折り畳まれており、

前記一または複数からなる剥離紙における前記ズレ止め用粘着手段と仮着されていない面側にカバーシートが接着され、これら一または複数からなる剥離紙とカバーシートとが一体となっており、かつ、

少なくともウイングに形成されたズレ止め用粘着手段を覆う剥離紙が、ウイングから剥がしたときに前記ウイングが起き上がる程度の腰の強さを有する素材で構成されていることを特徴とするウイング付吸収性物品。

【請求項７】

本体部分における長手方向中間の両側部分に、使用状態においてショーツの股間部の側縁を回り込んでショーツ外面にそれぞれ当てがわれるウイングが形成されており、前記本体部分および両ウイングの非使用面に、それぞれズレ止め用粘着手段が形成された吸収性物品において、

一または複数からなる剥離紙が前記本体部分に形成されたズレ止め用粘着手段および前記両ウイングに形成されたズレ止め用粘着手段を共に覆って、これら粘着手段に仮着されるとともに、

前記両ウイングが前記剥離紙とともに前記本体部分の非使用面側に折り畳まれており、

前記一または複数からなる剥離紙における前記ズレ止め用粘着手段と仮着されていない面側にカバーシートが接着され、これら一または複数からなる剥離紙とカバーシートとが

一体となっており、
前記カバーシートにより本体部分の非使用面が実質的に覆われており、前記カバーシートを外面側として、長手方向に折り畳まれ、この折り畳み状態における前記カバーシートの両側縁部がヒートシール接合されて、
包装されていること特徴とするウイング付吸収性物品。
【請求項８】
前記カバーシートの長手方向一端側に止着用テープを備える請求項１～７の何れか１項に記載のウイング付吸収性物品。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、ウイング付吸収性物品に係り、特に、ショーツに取り付ける際の取扱いが容易であり、さらには包装の便を図ったウイング付の生理用ナプキンやパンティ―ライナーといった吸収性物品に関する。
【０００２】
【従来の技術】
生理用ナプキンやパンティーライナーといったいわゆる吸収性物品は、経血の排出中、人体の局部に当てがうようにショーツに貼着して使用されるが、日常生活において普通に行われる歩行や軽い運動等に伴って、局部との相対位置がズレ易くなる。このような横ズレが生じた場合、経血がショーツから漏れ易くなるため、かかる横ズレを防止することは非常に重要である。
【０００３】
近年、横ズレを防止するために、図１４に示すようなナプキンが用いられている。このナプキン２０は、非使用面側にその大部分を覆うような粘着剤が塗布されており（図示しない）、この粘着剤の粘着力によりショーツとのズレを防止するとともに、ナプキン本体の長手方向中間の両側部に外方に延在するウイングW，Wを一体的に備え、かつこれら各ウイングW，Wには粘着剤２１、２１が塗布されている。製品状態では、これらの各粘着剤面２１、２１には、それぞれ剥離紙が剥離可能な状態で仮着されている。
【０００４】
前記ナプキンをショーツに固定する際には、先ず非使用面に仮着されている剥離紙を剥がし、ショーツの股間部の内面にあてがい、次いで、両ウイングW，Wに仮着されているそれぞれ剥離紙を剥がす。そして、図１５に示すように、ショーツＳの股間部側縁からウイングW，Wを回り込ませ、ショーツＳの股間部外面にウイングW，Wを粘着させることによってナプキンの横ズレを防止する。
【０００５】
他方、これらナプキンは、衛生上の理由や携帯の便を図って、通常、個装袋により単体ごとに包装され市販されている。この包装された状態では、ナプキン全体が広がりすぎないように、ウイングは、たとえばナプキン本体の非使用面側に折り畳まれている。
【０００６】
【発明が解決しようとする課題】
しかしながら、前述したウイング付ナプキンの場合には、横ズレ防止効果は高いものの、その取扱性に欠けるものである。たとえば、包装状態では、ウイングは、非使用面側に折り畳まれているため、ショーツに貼着する、またはウイング用剥離紙を剥がすにあたり、ウイングを摘むのに手間取るという問題が生じている。
【０００７】
また、ウイング用剥離紙と本体用剥離紙とは、各粘着剤に対してそれぞれ独立して仮着されていたため、これらの剥離紙を剥がすためには、まず本体用剥離紙を剥がし、続いて片方の剥離紙を剥がし、さらに他方の剥離紙を剥がすという３段階の工程を必要としている。また、両ウイングの粘着剤に一枚のウイング用剥離紙のみが仮着されている場合でも、２段階の工程を必要とする。さらに、両ウイングに仮着されている剥離紙は、その面積

をいきおい小さくせざるを得ないため、これを剥離することは、著しく手間のかかるものであった。その他、ゴミとなった剥離紙を捨てなければならないという手間もあった。

【０００８】

他方、ナプキンは、前述のように衛生上の理由により、個装袋により単体ごとに包装されているが、この個装袋分のコストが別途必要になっているとともに、その使用に当たっては、この個装袋の封を切って内部のナプキンを取り出す作業が必要となっている。

【０００９】

そこで、本発明の第１の課題は、吸収性物品をショーツに取り付ける際に、粘着剤に仮着されている剥離紙を１工程で剥がすことができるようにするとともに、手間のかかる両ウイングに仮着された剥離紙を簡易な手順で容易に剥がせるようにし、ウイングをショーツに取り付け易いようにすることにある。

【００１０】

また、第２の課題は、さらに包装の便を図り、経済的かつ取扱いに優れたものとすることにある。

【００１１】

【課題を解決するための手段】

上記第１の課題を解決した本発明に係るウイング付吸収性物品は、本体部分における長手方向中間の両側部分に、使用状態においてショーツの股間部の側縁を回り込んでショーツ外面にそれぞれ当てがわれるウイングが形成されており、前記本体部分および両ウイングの非使用面に、それぞれズレ止め用粘着手段が形成された吸収性物品において、

一または複数からなる剥離紙が前記本体部分に形成されたズレ止め用粘着手段および前記両ウイングに形成されたズレ止め用粘着手段を共に覆って、これら粘着手段に仮着されるとともに、

前記両ウイングが前記剥離紙とともに前記本体部分の非使用面側に折り畳まれており、

前記一または複数からなる剥離紙における前記ズレ止め用粘着手段と仮着されていない面側にカバーシートが接着され、これら一または複数からなる剥離紙とカバーシートとが一体となっていることを特徴とするものである。

【００１２】

本発明においては、本体部分に形成されているズレ止め粘着手段と、両ウイングに形成されているズレ止め粘着手段に対して、単一または複数からなる剥離紙が仮着されているとともに、これらの剥離紙とカバーシートとが一体的に接着されている。したがって、カバーシートを剥がすという１工程によって、同時に剥離紙のすべてを剥がすことができるとともに、小さくて摘みにくいウイング用剥離紙を剥がす作業から開放されることにもなる。

【００１３】

本発明において剥離紙は単一の素材または複数の素材によって構成されるが、特に複数の素材で構成される場合は、前記剥離紙は、前記本体部分に形成されたズレ止め用粘着手段を覆って仮着された本体用剥離紙と、前記両ウイングに形成されたズレ止め用粘着手段を覆って仮着されたウイング用剥離紙とからなり、このカバーシートを引っ張ることにより、前記剥離紙が前記ズレ止め用粘着手段から剥がされるように構成することができる。

【００１４】

その具体的な第１の態様としては、前記本体部分に形成されたズレ止め用粘着手段を覆って本体用剥離紙を仮着し、この本体用剥離紙を跨ぎかつ前記両ウイングに形成されたズレ止め用粘着手段を覆ってウイング用剥離紙を仮着し、

前記両ウイングを前記ウイング用剥離紙とともに前記本体部分の非使用面側に折り畳み、本体用剥離紙における前記ズレ止め用粘着手段に仮着されていない面とカバーシートとを接着するとともに、前記ウイング用剥離紙における前記ズレ止め用粘着手段に仮着されていない面と前記カバーシートとを接着するものである。

【００１５】

かかる態様であれば、本体部分の粘着手段に本体用剥離紙を仮着し、さらに本体用剥離

紙を跨いで、ウイングの粘着手段にウイング用剥離紙を仮着した後、本体用剥離紙およびウイング用剥離紙を通して接着剤を連続または間歇的に一気に塗布し、その上からカバーシートを接着することができるため、製造工程の簡略化を図ることができる。

【００１６】

また第２の態様は、前記本体部分に形成されたズレ止め用粘着手段を覆って本体用剥離紙を仮着し、この本体用剥離紙を跨ぎかつ前記両ウイングに形成されたズレ止め用粘着手段を覆ってウイング用剥離紙を仮着し、

前記両ウイングを前記ウイング用剥離紙とともに前記本体部分の非使用面側に折り畳み、前記ウイング用剥離紙と前記本体用剥離紙の重合部において本体用剥離紙とウイング用剥離紙とを接着するとともに、

前記本体用剥離紙における前記ズレ止め用粘着手段に仮着されていない面および前記ウイング剥離紙における前記本体用剥離紙に接着されていない面の内の少なくとも一方とカバーシートとを接着するものである。

【００１７】

これらの場合において好ましくは、前記ウイング用剥離紙として、このウイング用剥離紙を前記ウイングから剥がしたときに、前記ウイングが起き上がるように腰の強い素材を用いる。

【００１８】

かかるウイング用剥離紙を用いると、剥離紙を剥がす工程において、ウイング用剥離紙が剥がれる位置に差し掛かったときに、ウイング用剥離紙の腰の強さにより、図４に示すように、ウイング用剥離紙が開く。その後の剥離工程において、ウイング剥離紙が引っ張られる際に両ウイングの粘着剤に引きずられて、ウイングが立ち上がった状態となり、剥離紙を剥離した後は、ウイングがほどよく立ち上がった状態となるので、ショーツの股間部に対する巻き込みが容易となり、したがって、ナプキンをショーツに取りつけるのが容易となる。

【００１９】

他方、第２の課題を解決した本発明においては、前記カバーシートで本体部分の非使用面を実質的に覆い、前記カバーシートを外面側として、長手方向に折り畳み、この折り畳み状態における前記カバーシートの両側縁部をヒートシール接合し、前記吸収性物品を包装した。

【００２０】

したがって、カバーシートを破って展開させると、同時に吸収性物品も展開され、即時使用可能な状態となるため、使用時の一連の作業は大幅に簡略化され、取扱性に優れたものとなる。

【００２１】

本第２発明において、さらに望ましくは、前記カバーシートの長手方向一端側に止着用テープを備える。この止着テープを備えることにより、包装状態の吸収性物品の展開が容易となる。

【００２２】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図面により具体的に説明する。

図１は、本発明に係る吸収性物品の平面図、図２はその２－２線矢視図、図３はその３－３線矢視図である。

【００２３】

図１および図２に示される生理用ナプキンＮ（以下、単に「ナプキン」ともいう。）は、ポリエチレンシートなどからなる不透液性シート１と、不織布または孔開きプラスチックシートなどからなる透液性シート３と、その間に介装された綿状パルプまたは合成パルプなどからなる吸収体２とから構成されている。また、不透液性シート１と透液性シート３とは、それらの外縁部分Ｆがホットメルトなどの接着剤やヒートシールなどの接着手段により重ね合わされているとともに、ナプキンＮの長手方向中間部の両側に、吸収体２が

存在せずに、不透液性シート１と透液性シート３とが共に本体部分より延在してフラップ状のウイングW，Wが形成されている。

【００２４】

本体部分の非使用面（不透液性シート面側）には、たとえばズレ止め用粘着手段としてのホットメルト粘着剤４が比較的広い面積に渡って適宜のパターンで塗布されており、このホットメルト粘着剤４は本体用剥離紙５により被覆され仮着されている。また、ウイングW，Wの不透液性シート面側には、ズレ止め用粘着手段としてのホットメルト粘着剤６、６がロールまたはノズルなどにより塗布されており、このホットメルト粘着剤６、６は、本体剥離紙５を跨ぐウイング用剥離紙７によってそれぞれ被覆され仮着されている。これら両ウイングW，Wおよびウイング用剥離紙７は、本体部分の非使用面側に折り返されている。このウイング用剥離紙７としては、本体用剥離紙５よりも腰の強いもの、たとえば表面を離型処理した厚紙などが好適に用いられる。

【００２５】

さらに、ウイング用剥離紙７における、本体用剥離紙５との重ね合わせ部の表面には、接着剤８が塗布されており、この接着剤８によってウイング用剥離紙７とカバーシート９とは強固に接着されている。カバーシート９としては適宜のものを使用することができるが、好適には剥離紙、またはプラスチックシート、プラスチックフィルムなどが用いられる。また、本体用剥離紙５において、ウイングW，Wの長手方向前後位置には、接着剤１０、１０が塗布されており、これら接着剤１０、１０によって本体用剥離紙５がカバーシート９と強固に接着されている。この接着剤８と接着剤１０とは、ナプキンNの製造工程において、一気に塗布することができる。

【００２６】

かかる態様において、本体用剥離紙５とウイング用剥離紙７とは、接着されている場合と、図示しない接着剤で接着されている場合とがあるが、いずれの場合においても、本体用剥離紙５およびウイング用剥離紙７は、接着剤８、１０によってカバーシート９に接着されている。

【００２７】

この生理用ナプキンNを使用する際には、カバーシート９の長手方向一端を摘んで引っ張る。すると、カバーシート９と本体用剥離紙５とは強固に接着されているため、まず本体用剥離紙５がその長手方向端部よりホットメルト粘着剤４から引き剥がされ、ホットメルト粘着剤４の一部が露出する。さらに引っ張り続けると、図４に示されるように、カバーシート９とウイング用剥離紙７とが接着されているため、ウイング用剥離紙７が反り返りながら剥離される。この際、ウイング用剥離紙７として腰の強い素材を使用しているため、剥離境界部分に反り返り方向のカール部分が形成されることにより、両ウイングW，Wが本体部とほぼ同一平面を形成するように展開され、引き続きカバーシート９を引き上げると、ウイングWのホットメルト粘着剤６、６からウイング用剥離紙７が剥離される。

【００２８】

さらにカバーシート９を引っ張り続け、本体部からカバーシート９を完全に取り去ると、図５に示されるように、本体部に塗布されたホットメルト粘着剤４、４および両ウイングW，Wに塗布されたホットメルト粘着剤６、６が完全に露出する。また、両ウイングW，Wは、非使用面側への折り返しにより折り癖が付与されているとともに、ウイング用剥離紙７を剥がす工程において、ウイング用剥離紙７に引きずられて、ほどよく立ち上がった状態となる。したがって、ショーツに取り付ける際には、この状態のまま裏返し、図６に示すように、そのまま非使用面をショーツSの股間部内面に当てがうと、両ウイングW，Wはショーツの股間部から横方向に広がるので、所定位置に定位させるのが容易になるとともに、股間部を巻き込んでショーツSの外面に両ウイングW，Wを粘着させる作業が極めて容易に行えるようになる。換言すれば、カバーシート９を引っ張るのみで、ナプキンNにおけるすべての剥離紙が剥がれるようになっているとともに、ショーツに取り付け易い形となっているのである。

【００２９】

そして、ホットメルト粘着剤４、４を介してナプキンＮをショーツＳにしっかり圧着固定するとともに、両ウイングW，Wに塗布されたホットメルト粘着剤６、６を介して両ウイングW，Wを、ショーツＳの股間部に回り込ませて固定することにより、横ズレが完全に防止された状態でナプキンＮをショーツＳに取り付けることができる。

【００３０】

次いで、図７および図８に示される他の態様の生理用ナプキンは、ナプキン本体は第１例と同様であるが、この態様においては、剥離紙が接着されている部分が異なる。具体的には、接着剤１１によって本体用剥離紙５とウイング用剥離紙７が接着されており、接着剤１０によって本体用剥離紙５とカバーシート９とが接着されている。この態様であっても、剥離紙を剥がして、ショーツに取り付けるまでの過程は第１例と同様である。

【００３１】

また、図９に示すように、この第２例において、さらにウイング用剥離紙７とカバーシート９を接着剤１２Ａによって接着してもよい。さらには、本体用剥離紙５とウイング用剥離紙７、７とを設ける代わりに、図１０に示されるように、略十字形状の単一の素材によって形成された剥離紙１３を用いることもできる。この場合、剥離紙１３が、本体部に塗布されたホットメルト粘着剤４、４と両ウイングW，Wに塗布されたホットメルト粘着剤６、６に仮着され、この仮着されている面の反対側の面に接着剤１４を塗布して、剥離紙１３がカバーシート９と接着される。

【００３２】

他方、本発明に係る第２発明は、図１１に示されるように、第１発明の第１例におけるカバーシート９以外は同様の構成とされているが、カバーシート９の代わりに、実質的に不透液性シート全体を覆うカバーシート９Ａが設けられている。このカバーシート９Ａとしては、剥離性があれば適宜の材質のものを使用することができるが、好適には、剥離紙、またはプラスチックシート、プラスチックフィルムなどが用いられる。また、カバーシート９Ａには、長手方向一端側に止着用テープ１２が固定されている。なお、前記カバーシート９Ａとしては、生理ナプキンＮの全面を覆う広さ以上のカバーシートを用いるのが好ましいが、場合によっては、前記止着用テープ１２が固定されている側と反対側については、鎖線Ｌで示されるように、生理用ナプキンＮの一部が露出していても問題ない。ただし、以下に示すように、ナプキンＮをカバーシート９Ａによって包装したときに、ナプキンＮ全体がカバーシート９Ａによって完全に内包される程度の長さとする必要がある。

【００３３】

かかる生理用ナプキンＮは、たとえば図１２(a) ～(d) に示される要領によって包装される。

【００３４】

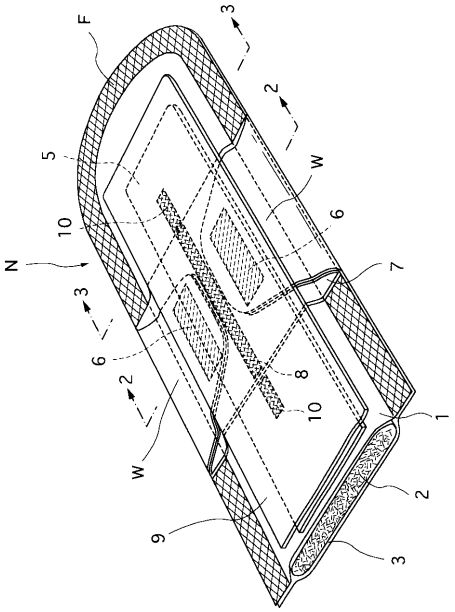
まず、図１２(a) に示される平面展開状態から、図１２(b) に示されるように、カバーシート９Ａを外面側として、長手方向にほぼ３等分された止着用テープ１２が固定されていない側の一端側部分を折り返した後、図１２(c) に示されるように食い違い状態で止着用テープ１２が固定された側の他端側部分をその上に重ねるようにして折り畳み、最後に、止着用テープ１２をカバーシート９Ａ上に止着して固定する。この状態から、図１３に示されるように、前記カバーシート９Ａの両側縁１５、１６をその外縁に沿ってヒートシール接合して、カバーシート９Ａを包装用シートとして包装された生理用ナプキンを得る。なお、前記止着用テープ１２による止着に代えて、カバーシート９Ａの端縁をホットメルト接合またはヒートシール接合することもできる。なお、本例の場合には、ナプキンを長手方向に３つ折りとして包装したが、２つ折り、４つ折りまたはそれ以上の折りとして包装することも可能である。

【００３５】

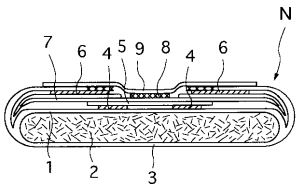
前記した生理用ナプキンＮの使用にあたっては、まず止着用テープ１２を剥がして、両側縁１５、１６の接合部分を引き裂きながら折り畳み部分を展開させて図１２(a) に示される平面展開状態とする。その後は、上記第１発明において説明した手順により生理用ナプキンＮをショーツに対して固定する。

【００３６】
なお、この本第２発明の説明にあたって、剥離紙とカバーシートとの接着関係が、本第１発明における第１の態様の例と同一であるものを用いたが、第２の態様の例と同一のものを用いてもよい。
【００３７】
ところで、本実施例においては、透液性シート３と不透液性シート１との間に吸収体２が介在されたタイプの生理用ナプキンを例にとって説明したが、他のタイプの生理用ナプキン、たとえばポリエチレンラミネート不織布の上に紙で被包された吸収体をホットメルト接着剤により強固に固定したタイプの生理用ナプキンなど、ウイングを有する生理用ナプキンやおりものシートといった吸収性物品全てに対して適用可能である。
【００３８】
【発明の効果】
以上の説明から明らかなとおり、本第１発明によれば、吸収性物品をショーツに取り付ける際に、粘着剤に仮着されている剥離紙を１段階の工程で剥がすことができる。これに伴い、ウイングに仮着されさているウイング用剥離紙のみを剥がす作業から開放されることになる。さらには、剥離紙を剥がした後の吸収性物品をショーツに容易に取り付けることができる。
【００３９】
また、本第２発明によれば、さらに包装の便を図り、経済的かつ取扱いに優れた吸収性物品を得ることができる。
【図面の簡単な説明】
【図１】本第１発明に係るナプキンの斜視図である。
【図２】その２－２線断面図である。
【図３】その３－３線断面図である。
【図４】剥離紙を引き剥がす際の工程図である。
【図５】その後の工程図である。
【図６】ショーツに取り付ける際の工程図である。
【図７】本第１発明に係るナプキンの第２の態様の斜視図である。
【図８】その８－８線断面図である。
【図９】本第１発明に係るナプキンの第３の態様の断面図である。
【図１０】その第４の態様の斜視図である。
【図１１】本第２発明に係るナプキンの斜視図である。
【図１２】本第２発明に係るナプキン包装手順図である。
【図１３】その包装状態斜視図である。
【図１４】従来のウイング付生理用ナプキンの斜視図である。
【図１５】その使用状態図である。
【符号の説明】
１…不透液性シート、２…吸収体、３…透液性シート、４，６…ホットメルト粘着剤、５…本体用剥離紙、７…ウイング用剥離紙、８，１０，１１，１２Ａ，１４…接着剤、１２…止着用テープ、１３…剥離紙、Ｎ…ナプキン、Ｗ…ウイング、Ｓ…ショーツ。

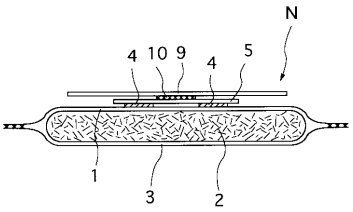
【図１】


F
3
2
5
W
10
6
N
7
3
6
8
2
10
1
W
2
9
3

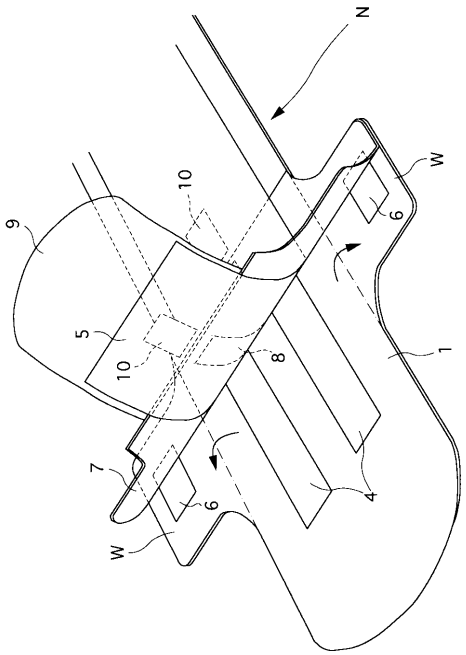
【図２】


N
7
6
4
5
9
8
4
6
1
2
3

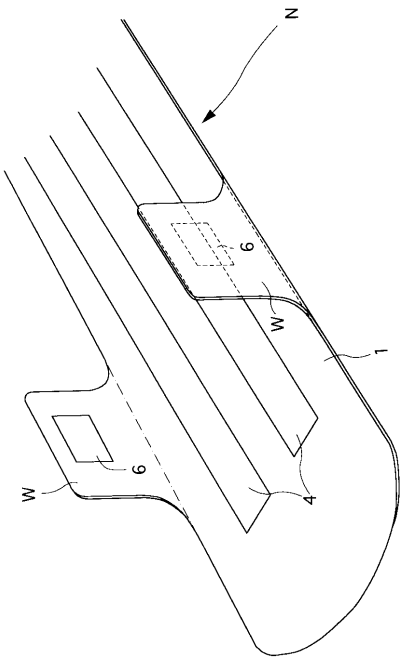
【図３】


N
4
10
9
4
5
1
3
2

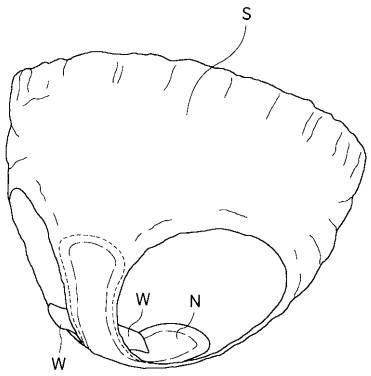
【図４】


N
W
10
9
6
5
10
8
1
7
6
4
W

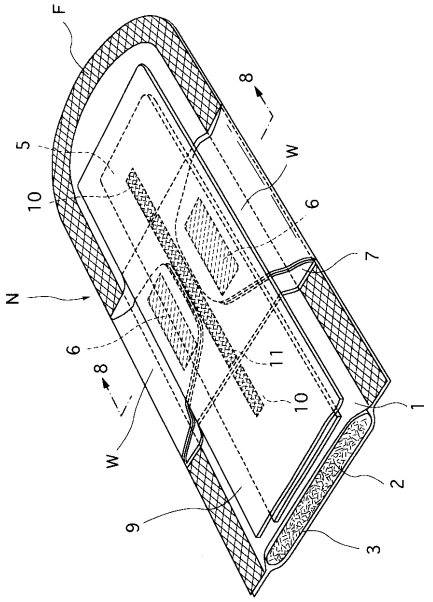
【図５】


N
6
W
1
6
W
4

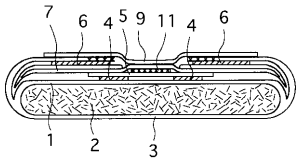
【図６】



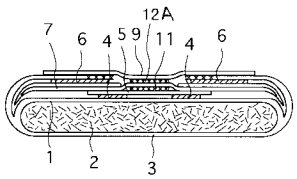

【図７】



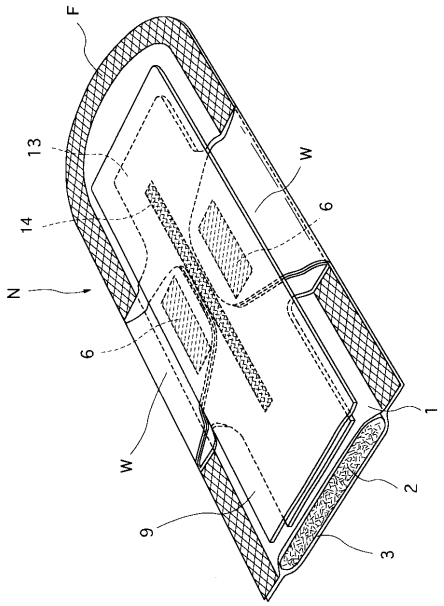

【図８】



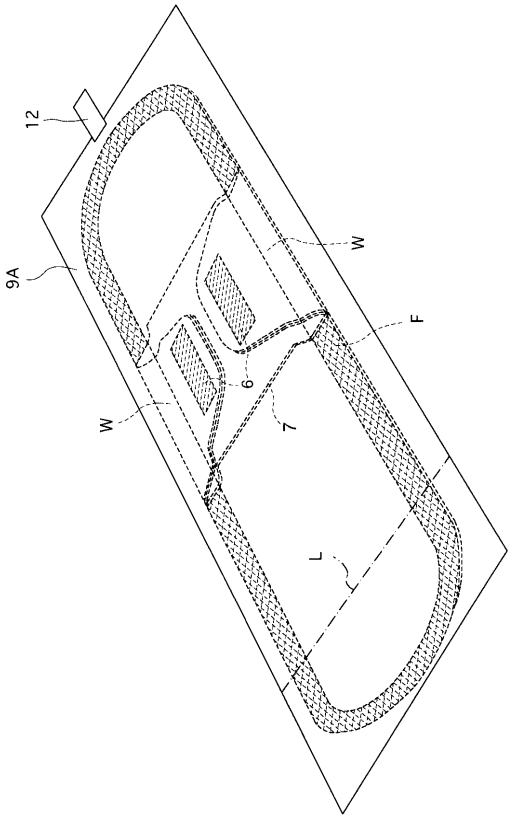

【図９】



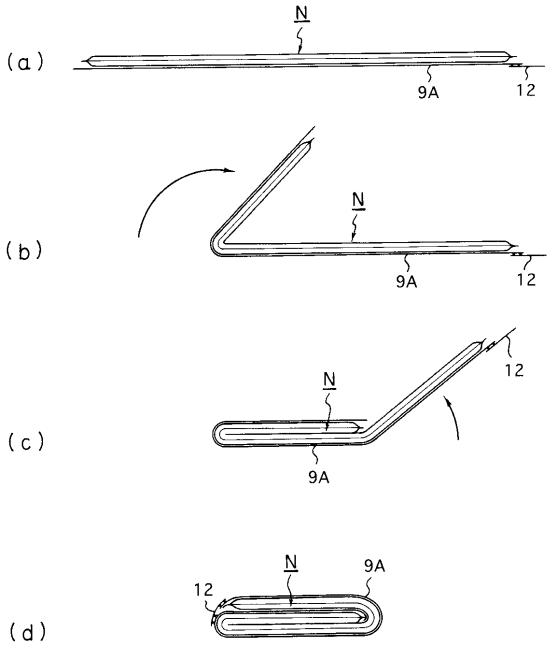

【図１０】



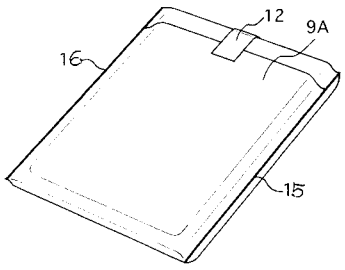
【図１１】



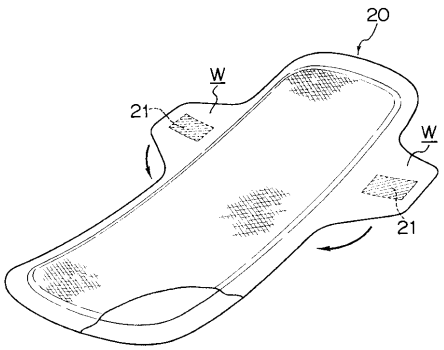

【図１２】



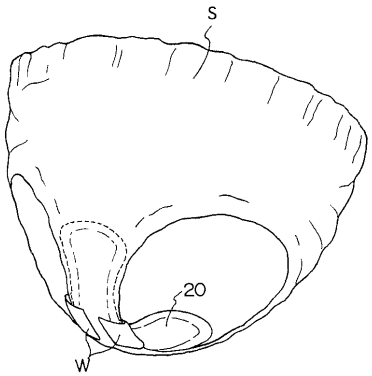

【図１３】




【図１４】




【図１５】



フロントページの続き

(72)発明者　森本　恭代
愛媛県伊予三島市紙屋町５番１号　大王製紙株式会社内

審査官　島田　信一

(56)参考文献　実開平０５－００９５２９（ＪＰ，Ｕ）
特開平０６－３１５５０４（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A61F 13/56